



佐渡市：元気で魅力的な地域づくりについて  
：島びと元気応援団について

《対応》

佐渡市 産業観光部地域振興課	係長	サカイ 氏
市民福祉部市民生活課健康推進室	室長	サイトウ 氏
		カワカミ 氏

《説明内容》

- ・元気で魅力的な地域づくりについて（地域活動支援事業）  
地域おこし協力隊員（コミュニティ型、ミッション型）  
地域活動支援員（NPO 法人、市職員 OB、元教員、元協力隊員）  
地域振興推進会議、学生受入実績
- ・島びと元気応援団について  
島びと元気応援団とは  
団体数と構成員  
活動の条件

《質問》

- ・元気で魅力的な地域づくりについて（地域活動支援事業）  
これまでの事業実績  
地域課題解決の体制  
地域づくり活動の拠点施設整備  
現状の課題と今後の方向性
- ・島びと元気応援団について  
これまでの活動経過  
行政との役割分担  
行政からの支援  
健康づくりと地域づくり

《所感》

別紙参照

妙高市：小規模特認校（新井南小学校）について

《対応》

妙高市	教育委員会こども教育課	課長補佐	松橋 守 氏
		指導主事	江口 克也 氏
	新井南小学校	校長	鹿住 寿和 氏
		教頭先生	丸山 文雄 氏

《説明内容》

小規模特認校とは  
教育方針  
特色ある教育活動  
小規模を活かした教育  
自然体験  
外国語活動  
恵まれた環境  
学校授業視察

《質問》

導入の目的  
一般校との違い、特徴  
今後の展開

《所感》

別紙参照

以上

妙高市：小規模特認校（新井南小学校）について

《対応》

妙高市	教育委員会こども教育課	課長補佐	松橋 守 氏
		指導主事	江口 克也 氏
	新井南小学校	校長	鹿住 寿和 氏
		教頭先生	丸山 文雄 氏

《説明内容》

小規模特認校とは  
教育方針  
特色ある教育活動  
小規模を活かした教育  
自然体験  
外国語活動  
恵まれた環境  
学校授業視察

《質問》

導入の目的  
一般校との違い、特徴  
今後の展開

《所感》

別紙参照

以上

# 視察報告

刷新クラブ 田中和末

## 佐渡市 「元気で魅力的な地域づくりについて」

佐渡市の元気で魅力的な地域づくり事業は、過疎・高齢化の進む地域に地域活動支援員（集落支援員）を配置し、行政と住民のつなぎ役として地域活動の支援を行い、持続可能なコミュニティの形成を推進する目的で総務省の集落支援制度を活用して展開されている。併せて、地域独自の伝統文化や祭事の継承など地域の特性を生かした地域づくりを取り組むために専門家も含めた地域振興推進会議が開催されている。

地域支援員は島内の人材を活用しているが、島外の人材の活用については、地域おこし協力隊制度、CSR（首都圏等の企業）や大学との連携等により地域課題解決を図る取り組みが行われている。とりわけ大学生との連携は平成20年に1地区2名からはじまり、平成28年には全9地区で展開され、その数も96名に達し大きな効果を揚げており、本市においても一考すべき施策であった。

しまびと元気応援団は、「健幸さど21計画」の目標達成を目指すための実践グループとして組織され、平成18年度、6グループ（1グループ5名以上）から活動をはじめている。活動内容としては、食、運動、子育て等をテーマにしたグループごとの活動に加え、島全体の活動についても話し合いが行われている。平成26年度には53グループまで広がったが、途中見直しを行い、現在は31グループであるが参加者は13,000人を超えている。グループに対する補助金等はなく、すべて参加者の手弁当で運営されており、大変参考となる事業である。

## 妙高市 「小規模特認校について」

小規模特認校制度は、文部科学省が児童数の減少により存続が危ぶまれる小学校において、小規模の良さを活かした「特色ある学校運営」を進める場合に限り認められる制度で、市内全域から入学することが可能である。

妙高市においては、平成28年度から新井南小学校を小規模特認校に指定し特色ある教育活動を進めている。小規模の利点を活かしたきめ細かな学習指導をはじめ、豊かな自然体験や地域の住民とのふれあいを大切にし、心豊かな児童を育てる取り組みが行われている。とりわけ、新井南小学校においては、英語の習得に力を入れており、小学校1年生から各学年に応じたカリキュラムに沿った授業や会話能力を身につけるため台湾への修学旅行（6年生）等の活動も展開されている。授業時間も休み時間を工夫するなどして他校と比べ2～3倍の授業時間が確保されている。2年生の授業中に子ども達から英語で質問を受けたが、みんな積極的に生き生きとしていた印象を受けた。本市の中山間地域の小学校においても検討すべき事業である。

## 会派行政視察研修 報告(所感)

刷新クラブ 田村隆嘉

### 佐渡市

#### :元気で魅力的な地域づくりについて

平成24年から地域活動支援事業として、地域おこし協力隊、国の集落支援員制度を活用した地域活動支援員の設置や大学、企業等との連携による活動で、地域コミュニティの維持や活性化など、地域課題の解決を支援し、持続可能なコミュニティの形成を目指している。

平成29年度は地域おこし協力隊は10名で各集落で活動するコミュニティ型と特定の課題に対応するミッション型がある。地域活動支援員は地域状況調査や課題の把握・整理、市民・団体と行政との連絡調整、まちおこし協力隊の活動支援などを行い、専任1名、兼任6名(市職員 OB、元教員、元協力隊)である。

また、各地域活動の支援のために近隣および首都圏の大学生を受入れ、参加延べ人数は年間100名程度、大学は10を超えている。

行政が積極的に市外からの人材を活用した地域活動支援に取り組まれている。

#### :島びと元気応援団について

佐渡市の健康づくり計画「健幸さど21」の目標を達成するために、平成18年度から始まった市民グループの活動を支える事業で、活動内容は“食”、“運動”、“子育て”等をテーマとしている。

行政は情報誌の発行や活動に関する相談、活動拠点の提供を行っているが、各グループの活動は自主性に任せてあり、活動、運営は定着、継続している。

健康づくりと地域づくりが連動していることも、活動が継続している要因の一つであると思われる。

## 妙高市 :小規模特認校(新井南小学校)について

昭和36年からこれまでに7校の小学校を統合してきた新井南小学校は、複式学級化となるところまで児童数が減少した。

地域に小学校を残すため、平成28年度から小規模特認校として、市内校区外からも通学可能で、特色ある教育を展開する学校として運営方式を変更された。

初年度は校区外からの通学希望はなかったが、オープンスクール、学校説明会には参加者がある。

校舎は比較的新しく、各学年1クラスの教室は仕切られておらず、開放的である。また、保育所も併設されている。

小規模を活かした特色ある教育として、1年生から英語教育を実施しており、他校に比べて2~3倍程度の授業時間数であり、ALTは週2日常駐している(他校は1日)。授業参観の中で2年生の児童から英語でインタビューを受けたが、はっきりとした発音であった。

修学旅行先で外国人に英語でインタビューする体験学習や次回は台湾への修学旅行で現地の小学校を訪れて国際理解を深める学習(事前にe-mailで情報交換)を行う予定にしている。

タブレットを活用した授業、学習も行われており、授業参観したところ、教える教員も十分に活用していた。

WiFi環境やタブレット端末の台数が少い(数人で1台)等の課題はある。

英語だけでなく、その他の教科の授業を参観したが、子ども達は楽しそうに授業を受けている姿が印象的であった。

## 周南市議会刷新クラブ行政視察報告

報告者 小林雄二

視察日程 2017年10月16日(月)～10月18日(水)

視察内容 佐渡市(10月17日):「元気で魅力的な地域づくりについて(地域活動支援事業)」「島びと元気応援団について」

妙高市(10月18日):「新井南小学校(小規模特認校)について」

### 佐渡市概要

佐渡島は日本海の中央に位置する、おけさと朱鷺や金山で知られる観光の島です。平成16年3月1日にそれまでの1市7町2村が合併して人口≒7万人の「佐渡市」が誕生した。その面積は855.2km<sup>2</sup>、東京都23区の≒1.4倍という日本最大の離島であり、地域や気候、文化面から日本の縮図ともいわれている。

慶長年間(1596～1614)には相川金銀山が発見され、江戸末期までの270年余りを徳川幕府の財政を支える天領地として栄えた。

都の皇族や文化人が伝えた貴族文化、徳川幕府による武家文化、北前船等による町人文化が島の中で和合醸成し、国の重要無形民俗文化財に指定されている「文弥人形・説教人形・のろま人形」芝居など、数多くの伝統芸能が受け継がれているところです。

人口56,722人、24,140世帯(2017.10.1現在)、議員定数22人、面積854.76km<sup>2</sup>の市である。

佐渡市：「元気で魅力的な地域づくりについて（地域活動支援事業）」「島びと元気応援団について」

所感

「元気で魅力的な地域づくりについて（地域活動支援事業）」は過疎地域等に所在する多くの集落において、人口減少と高齢化の進展に伴う生活扶助機能の低下、身近な交通手段の不足、空き家の増加、森林の荒廃、耕作放棄地の増加が重要課題であり、総務省の集落支援員制度を活用するものである。

地方自治体が「過疎地域等における集落対策の推進要綱」に基づき、集落支援員制度に取り組む場合には特別交付税措置（支援員一人当たり350万円上限、兼任の場合40万円上限）される。

佐渡市の場合平成24年度から地域活動支援員（集落支援員）を設置している。平成29年10月1日現在、地域活動支援員（集落支援員）の配置は専任1団体、兼任6人である。地域おこし協力隊員の配置は11人である。

それぞれ総務省の制度を活用した、地域コミュニティーの維持や活性化、地域活動支援・地域おこしへの人材活用であるが、佐渡市単体で考えると結構な人数を登用していると考えられる。

身分的には臨時職員としての3年間採用であり、継続性や今後における展開を考えると、地域の担い手がしっかり育っていくかどうか課題である。

## 佐渡市「島びと元気応援団について」

### 所感

しまびと元気応援団は、佐渡市の健康づくり計画「健幸さど21」の目標を達成するために市民グループとして平成18年に誕生した。

世代を超えてつながりを大事に、健康寿命を延ばし、生涯現役を目標に、平成18年度から活動を始めている。平成29年4月1日現在、27団体、367名登録されている。グループへの予算措置は行わず、パンフレットの作成費や年間行事の原材料費は支給しているとのことであった。

今後の課題としては、しまびと元気応援団メンバーからも運営参加を働きかけたいとのことであった。

活動の内容としては、各種料理教室、自然観察、ウォーキング、健康運動、座談会、茶話会、佐渡民謡の伝承普及などいわゆる公民館活動にも似た活動が展開されており、統括する行政機構は市民生活課健康推進室となっている。

活動のテーマが「さどに元気を広げよう、しまびとみんなが大家族」であり、ゆっくりじっくりやっていくべきグループ活動ではないのかなとも感じた。

## 妙高市（10月18日）：「新井南小学校（小規模特認校）について」

### 妙高市概要

平成17年4月に合併により妙高市が誕生した。新井市に妙高高原町、妙高村が編入

合併して妙高市となった。

人口 33,366 人、世帯数 12,372 世帯（2017.3.31 現在）、面積 445.63 km<sup>2</sup>、議員定数 18 人である。

当地域は古くから北国街道の要衝であり、江戸時代には佐渡で産出された金を江戸に送るため北国街道が整備され、県境には「重き関所」の関川関所が置かれ、いわゆる「入り鉄砲・出女」を厳しく取り締まった。

妙高山麓一帯は平成 27 年 3 月 27 日に誕生した妙高戸隠連山国立公園に属し、雄大な自然景観と四季折々の変化に富み、多くの温泉やスキー場などの観光地を抱えている。

農地の集積等による大規模農家の育成などの担い手の育成・確保や法人化にも取り組んでおり、農業分野での「妙高ブランド」を確立するとともに、地元農業雇用の拡大、U・Iターンによる定住化を図っている。

東洋経済新報社による「住みよさランキング 2016」では一昨年の 46 位から 27 位と順位を上げ、3 年連続県内 1 位と評価されている。

妙高市：「新井南小学校（小規模特認校）について」

所感

新井南小学校スクールバス通学は各地区からルートを通して 30 分程度かかる。

通常学級数各学年の 6 学級、特別支援学級 1 年～3 年のサポート学級 1 学級、4 年～6 年のサポート学級 1 学級の総合計 8 学級である。

通常学級在籍児童数56人、特別支援在籍児童数6人、の総児童数61人。

職員数は、校長1人、教頭1人、教諭9人、養護教諭1人、事務職1人、調理員2人、ALT1人(週2日)、図書司書1人(週1日)、特別支援教育支援員2人、用務員1人、の総合計20人の体制であった。

新潟県妙高市内には現在、新井南小学校を含め小学校8校、中学校3校、県立高校1校、市立総合学校1校が存在している。新井南小学校の特長は、スクールバスを利用できる市内全域からの就学を認める「小学校小規模特認校」に平成28年度から移行したということである。

小中学校の統廃合が叫ばれる中、少人数の特徴を生かした教育の取り組みの大切さと、地域の公共施設を何とかして守らなくてはならないという考えがその背景にあるのではないかと思うとともに、少人数の特徴を生かした教育の取り組みや、給食は自校方式を買っており、学校用務員も配置している。義務教育過程の取り組みの歴史的な違いがあるのかもしれないが、周南市との違いを感じた。

小規模校の特色を生かした教育はそれぞれ他市でも行われているが、新井南小学校の特徴は保育園と併設されており、園から小学校への接続プログラムが実施され、英語教育を低学年で年間25時間(他校8時間)、高学年で年間70時間(他校35時間)、実施されている。また、自然豊かな環境で特色ある教育展開を展開するために学校区外からでも入学を許可することができるとしており、今後の展開を注視したい。

## 行政視察報告書

報告者 得重謙二

1. 会派名 刷新クラブ（田中・小林・田村・得重）
2. 視察日時 平成 29 年 10 月 17 日（火）9:00～11:00
3. 視察場所 新潟県佐渡市
4. 視察項目 元気で魅力な地域づくりについて

### 5. 概要

過疎化や少子高齢化が急速に進む中、各地域の伝統芸能の継承や集落運営が困難になるなど、地域コミュニティの弱体化が進んでいる。その為、外部人材（本土の大学生や企業）と連携を図り、協働体制の仕組みづくりを行い、地域力の向上と伝統芸能を継承していくことを目的としている。主な活動としては、各地域でイベントや祭りがある場合、本土の大学生や企業の方を中心として、地域おこし協力隊を結成し、準備や運営をお願いしているのと併せ、佐渡市の魅力を外部に発信している活動である。

### 6. 所感

上述の概要を目的に活動を推進されているが、主たる要因としては、若者の本土流出による地域の担い手不足が言える。この要因は、各地方自治体で同様のケースが多く、解決していくのは非常に困難である。平成 20 年度から、本土の大学と協力体制をとり、地域おこし協力隊の数だけ見れば、年々増加しているものの、大学卒業後にボランティア活動を経験した方が、佐渡市に就職や移住したケースがあるか確認したが、そのケースは無いとの事であった。事業の計画や推進方法は、間違っているとは言えないが、少子高齢化又は、社会減による人口流出を防ぐまでの事業に至っていないのが現状であった。120 万人いた観光客が現在 50 万人まで落ち込み、島自体の魅力向上を目的とした活動をしないと、負の連鎖が止まることはなく、別角度からのアプローチが必要であると感じた。

## 行政視察報告書

報告者 得重謙二

1. 会派名 刷新クラブ（田中・小林・田村・得重）
2. 視察日時 平成 29 年 10 月 17 日（火）9:00～11:00
3. 視察場所 新潟県佐渡市
4. 視察項目 しまびと元気応援団

### 5. 概要

しまびと元気応援団は、佐渡市の「健康さど 21 計画」に掲げる世代別（年齢別）の目標達成を目指すため、また世代を超えた島民同士のつながりを大切に、健康寿命を延ばし、生涯現役を目標とし、市民自ら結成した活動グループで、様々な企画運営をしていく事業である。活動内容としては、「食」「運動」「子育て」などをテーマにしたグループごとの活動と、しまびと応援団全体の活動として、毎月 1 回、各グループの代表者が集まり、しまびと応援団全体の活動について話し合う日、しまびと応援団の活動を市民に広げる「しまびと元気まつり」の開催、また他のグループの活動を知り合うための「しまびと報告会」を開催している。

### 6. 所感

1 ページ記載の元気で魅力な地域づくり同様、地域活性化のための事業であり一見すると地域が活性化されている様に見えるが、各グループ自体が高齢化しており、次世代の担い手が育っていないという課題がある。活動そのものは前向きに取り組んでおられるが、数年後にはグループが消滅してしまう危機も感じられた。今後は行政と地域が協力し、グループの核となっただけの人材の確保や「ひとづくり」の仕組み構築に向けた新たな取り組みを展開されることを願う。

## 行政視察報告書

報告者 得重謙二

1. 会派名 刷新クラブ（田中・小林・田村・得重）
2. 視察日時 平成 29 年 10 月 18 日（水）9:00～10:30
3. 視察場所 新潟県妙高市
4. 視察項目 小規模特認校について

### 5. 概要

小規模特認校とは、自然豊かな環境に恵まれた小規模校を中心に、学校ごとの特色ある教育を展開して学区外からでも入学できる学校であり、平成 9 年に文部科学省が、教育改革プログラムの中で、児童数が減少し存続が危ぶまれる小学校において、小学校の良さを生かした「特色ある学校運営」を進める場合に限り、自治体全域から児童を集めることが認められる「小規模特認校制度」として制定した。新潟県では新井南小学校の他に 6 校あり、妙高市では平成 28 年度から新井南小学校を特認校として認定した。特色ある教育については、外国語活動を中心に小規模の利点を活かし、一人ひとりとの関係を大切に取り組んでいる。また、小学校と保育園を併設校舎とし、玄関全体を地域交流スペースとしていることから、園児から高齢者の方まで様々な年代の方とかかわりながら学校生活を送ることができる。

### 6. 所感

視察時間帯は、授業中であつたが、ちょうど 2 年生と 6 年生が英語の授業をしていた。2 年生の児童が英語で我々に質問をしてこられたが、みんなの英語力は予想以上のものであつた。6 年生にかんしては、修学旅行で台湾に行き、同じく英語授業を推進している学校と交流するなど、小規模であるが故に可能である取り組みを展開されていた。小学校の教諭は英語の科目自体が無いため、児童に教えるために相当の苦勞があつたと思うが、自主性の努力で克服されておられた。自然減での少子化を防止するのは非常に難しいものの、周南市においても中山間部の小学校で人口減少のケースが見られる中、統合及び廃校ではなく、小規模特認校を目指してもよいと感じた。